

# 第2学年 体育科学習指導案

指導者 紺野 昇

## I 単元名 「リズムにのって たかく ジャンプ！」(「C 走・跳の運動遊び イ 跳の運動遊び」)

### II 単元の指導構想

#### 1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

本単元は、学習指導要領の第1学年及び第2学年の2内容のC 走・跳の運動遊びに、次のように示されている。

C 走・跳の運動遊び	
技能	(1) 次の運動遊びを楽しく行い、その動きができるようにする。 イ 跳の運動遊びでは、前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすること。
態度	(2) 運動に進んで取り組み、きまりを守り仲よく運動したり、勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。
思考・判断	(3) 走ったり跳んだりする簡単な遊び方を工夫できるようにする。

#### 2 教材について

跳の運動遊びは、助走を付けて片足で踏み切り、前方や上方、連続して跳んだりすることをねらいとしている。本単元では、はじめに、『跳びっこ島』とした活動の場を提示し、積極的に挑戦しようとする意欲の喚起を図りながら、上方へ跳ぶ動きを身に付けさせていく。また、学習過程や場の設定を工夫し、一つ一つの運動について動きを高めるためのポイントについて友達の動きから気付かせたり、自分に合った場で練習させたりしながら、跳の運動遊びの楽しさに触れさせつつ、上方へ跳ぶ動きを身に付けることができるようにさせていきたい。

#### 3 子どもについて

子どもたちは、体を動かすことが好きで、運動時間には、力いっぱい運動する姿が見られている。しかし、ケンケンパのようにリズムを変えて跳んだり、助走を付けて上方に跳んだりする経験は少ない。学習においては、これまで行ってきた様々な活動を通して、自分のことだけでなく、まわりの友達に目を向けたり、友達と力を合わせて活動したりすることのよさを感じている子どもも増えてきている。これらの実態から上方に跳んだり、連続して跳んだりする感覚を育むとともに、一緒に運動遊びを行う友達とかわる中で、自分や友達のよさを活かしながら活動の仕方を考えたり、よりよい動きのポイントをみんなで共有し、教え合ったりする中で、できる喜びを味わいながら、自ら進んで運動に取り組み続けようとする子どもの姿を目指していきたい。

#### <復興教育(3つの教育的価値)との関連>

##### 1 生命や心について【いきる】「⑦【体の健康】」とのかわり

自分(たち)の運動する場や用具などを理解し、共に運動するメンバーや状況に合わせて安全に気を付けて運動するとともに、運動する楽しさや喜びを味わわせる。

##### 2 人や地域について【かわる】「⑨【仲間や地域の人々とのつながり】」とのかわり

課題解決を図る際は男女混合異質グループで行うようにさせ、活動方法や動きについて互いのよさを発揮し合いながら相互に評価し合わせることで、共に課題の達成に向かって活動していくよさに気付かせる。また、誰かが困っていたら進んで助けようとする資質を育む。

### III 単元の指導計画

#### 1 目標

- 助走を付けて片足で踏み切り、上方に跳ぶことができるようにする。 【技能】
- 跳の運動遊びに進んで取り組み、きまりを守って仲よく運動勝敗を受け入れたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。 【態度】
- 跳ぶ簡単な遊び方を工夫できるようにする。 【思考・判断】

#### 2 評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・跳の運動遊びに進んで取り組みようとしている。</li> <li>・運動の順番やきまりを守り、勝敗の結果を受け入れて、友達と仲良く運動しようとしている</li> <li>・友達と協力して、用具の準備や片付けをしようとしている。</li> <li>・運動する場や用具の使い方などの安全に気を付けようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・跳の運動遊びの行い方を知るとともに、運動をする場や使用する用具などを変えながら、いろいろな運動の仕方を見付けたり、競争の仕方を選んだりしている。</li> <li>・跳ぶ動き方を知るとともに、友達のよい動きを見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片足で上方に跳ぶことができる。</li> </ul>
学習活動における具体的評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 跳の運動遊びを楽しむための活動に取り組もうとしている。</li> <li>② 約束を守り、友達と励まし合って活動しようとしている。</li> <li>③ 場の安全に気を配りながら運動しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④ 上方へ跳ぶ動き方が分かる。</li> <li>⑤ 友達のよい動きを見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ 助走を付けて片足で踏み切った上方に跳ぶことができる。</li> </ul>

### 3 指導計画 (全6時間)

時間	主なねらい・学習活動	学習活動における評価規準 (評価方法)		
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能
1	1 オリエンテーション 跳びっこ島の遊び方を知り、学習の見通しをもつ。 ・場の作り方を知る ・試しの運動を行う。	場の安全に (A:いつも) 気を配りながら運動しようとしている。 <評価③> (観察)		
2	1 用具や場の準備, 挨拶 2 準備運動 ・上方へ跳ぶ運動につながる基礎感覚づくりの運動を行う。		友達のよい動きを (A:進んで) 見付けている。 <評価⑤> (観察, 発言, ノート)	
3	3 跳の運動遊び 跳びっこ島で楽しく跳んで遊ぼう。 ・跳びっこ島の準備をする ・課題を解決するための手がかりを共有し合う。 ・ペアやグループ毎に手がかりとなる動きを確かめながら活動する。 ・学習したことを活かしながら、跳びっこ島で遊ぶ	跳の運動遊びを楽しむための活動に (A:いつも) 進んで取り組もうとしている。 <評価①> (観察)		
4	4 整理運動 5 学習のまとめ ・共通課題に基づき、振り返りを行い、動きの高まりやかかわるよさに気付く。 6 挨拶・片付け		助走を付けて上方へ跳ぶ動き方が (A:具体的に) 分かる。 <評価④> (観察, 発言, ノート)	
5 (本時)	4 整理運動 5 学習のまとめ ・共通課題に基づき、振り返りを行い、動きの高まりやかかわるよさに気付く。 6 挨拶・片付け			勢いよく助走を付けて片足で (A:力強く) 踏み切って上方に跳ぶことができる。 <評価⑥> (観察)
6	まとめの跳の運動遊びをする。 これまでの学習を活かし跳びっこ島で楽しく跳んで遊ぼう。	約束を守り、(A:肯定的にかかわりながら) 友達と励まし合って活動をしようとしている。 <評価②> (観察)		
努力を要する状況の子どもへの支援		・自分の力に合った場での動きを認め、繰り返し取り組ませながらよさを称揚するように努め、意欲を高めるようにする。	・教師や友達からのアドバイスをもとに考えさせながら練習に取り組ませる。	・自分の力に合った高さで繰り返し行わせたり、教師が積極的に補助したりしながら跳ぶことができるようにする。

### IV 本時の指導構想

本時は単元の第5時である。前時までには子どもたちは『跳びっこ島』という場において跳の運動遊びを行う中で、連続した踏み切り方や助走を付けた踏み切り方を経験してきている。本時では、助走を付けた踏み切り方を発展させて、助走を付けた片足での踏み切りの動きを取り上げていく。

準備運動では、ケンケンやスキップなど、片足で踏み切るための基礎感覚を養うことができるようにする。また、リズム太鼓を用いることで楽しい雰囲気を作り、跳の運動遊びに親しもうとする態度も育てていきたい。

跳の運動遊びでは、まず始めに試しの運動に取り組ませ、前時までとは異なる場を経験させることで生じる子どものつまづきをもとに共通の課題を設定していく。そこで、試しの運動に取り組ませる際は、子どもたちの動きをよく観察しながら実態把握に努めるようにしていく。さらに、共通課題を解決するための手がかりを見出す際には、よい動きをしている子どもを取り上げ、その子どもの動きに注目させていく。片足で踏み切っていることや勢いよく助走を付けていることに気付かせながら、よい動きのイメージを共有できるようにしていきたい。その際、力強い踏み切りや調子よく跳べていることに気が付いた子どもの発言もよい動きとして認めるようにする。その後、2人から3人の男女混合異質ペアやグループで活動させ、動きの手がかりをもとにしながら活動させていくことで、動きのよさに気が付いていくことができるようにする。また、様々な技能段階の子どもがお互いを思いやりながら活動させることで、友達もつよさに気付かせるとともに、励まし合いながら活動する心地良さにも触れさせていきたい。

振り返りの段階では、共通課題に基づき、板書や学習ノート、発言をもとにして、子どもたち一人一人に客観的に学びの過程を振り返らせることで、自分や集団としての動きの高まりやかかわるよさに気付かせるようにしていく。

### 【めざす子どもの姿】

前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりする運動遊びを通して、一緒に運動遊びを行う仲間とかかわる中で、自分や友だちのよさを活かしながら活動の仕方を考えたり、教え合ったり、よりよい動きのポイントをみんなで共有したりすることで、できる喜びを味わいながら、自ら進んで跳の運動遊びに取り組み続けようとする子ども

### 振り返りの充実

#### 手立て3 振り返りを通して、動きの高まりや友達とかかわるよさに気付かせる

学習課題に立ち返らせながら、板書や学習ノート、友だちの発言をもとに客観的に学びの過程を振り返り、助走を付けて片足で踏み切るといった動きについて、自分や集団として高まったことに気付かせるようにする。

(例)「両方の足で跳んでいたところの鬼に届かなかったけれど、片足で跳んだら届くようになった」  
「〇〇さんに教えてもらったおかげで、助走を付けて片足で跳べるようになった」

### 課題解決場面

#### ペアやグループでの活動

吊り下げられた鬼の絵に足を届かせる活動について、ペアで練習する場面を設け、1人は活動をし、もう1人はその様子を見るようにさせる。その中で、共有し合ったよい動きのポイントについてお互いに確かめ合うようにさせる。その際、共有し合った動きを友だちがしっかりと行うことができるかどうかについて、かけ声やアドバイスを積極的に行うことができるようにする。片足での踏み切りがうまくできない子どもには、教師と一緒に動くことで動き方を教えるようにしていく。また、片足での踏み切る動きを意識して跳ぼうとしている子どもを積極的に見つけ称揚していくことで、動き方への理解を深めさせたり、できる喜びを実感させたりするようにしていきたい。

### 課題解決への見通しをもつ

#### 手立て2 課題を解決するための手がかりを共有する。

本時は、とらえさせたい動きとして助走をつけた片足での踏み切りに注目させる。そのために、まず、片足で踏み切っている子どもの動きを取り上げ、片足で踏み切るよさに気付かせていく。また、片足で踏み切りより高く跳ぶためには、助走を付けた方がよさそうということにも触れ、助走を付けて片足で踏み切ることを、課題を解決するための手がかりとして共有していく。

(例)「片方の足は、蹴る準備をしているから片足で跳ぶほうがよい」  
「片足で跳ぶ時も、助走を付けて跳んだら高く跳べると思う」

### 共通課題を設定する

#### 手立て1 個々の思いや願いを生かして本時の共通課題を設定する。

試しの運動を通して生まれる「より高く跳べるようになりたい」、「より高く跳ぶためにはどうしたらよいか考えたい」という子どもたちの率直なつまづきや願いをもとにしながら共通の課題を見出す。

【本時の学習課題】 より高くとんで、高いところにすむおにをたいじしよう。

## V 本時の指導計画

### 1 目標

- 助走を付けて片足で踏み切り，上方に跳ぶことができるようにする。【技能】

### 2 評価規準

- 勢いよく助走を付けて片足で踏み切って上方に跳ぶことができる。【技能】

### 3 展開

学習活動	時間	・指導上の留意点 ◎研究にかかる具体的な手だて ◇評価規準	用具・資料
<b>1 学習内容の確認</b>	1分	・ 事前に健康観察や服装点検，用具や場所の安全確認をしておく。	移動黒板
<b>2 準備運動</b> ・ストレッチ  ・基礎感覚を養う運動	5分	・ 膝や足首，腰など本時の運動にかかわる部位をしっかりほぐすように意識させながら行うようにさせる。 ・ 跳の運動遊びにつながる基礎感覚を養う動きづくりを準備運動に位置付ける。リズム太鼓を用いながら，楽しい雰囲気の中で行わせる。  ①左足ケンケン（その場 → 左へ → 右へ → 前へ → 後ろへ） ②右足ケンケン（その場 → 左へ → 右へ → 前へ → 後ろへ） ③足打ち（1回 → 2回） ④一回転（右回り → 左回り） ⑤スキップ ⑥ギャロップ	リズム太鼓
<b>3 跳の運動遊び</b>			
(1) 跳びっこ島の準備をする。	3分	・ 安全に気を付けながらグループ毎に行わせる。分担を確認し，素早く準備できるようにする。	
(2) 試しの運動を行い，共通課題を見出す。	5分	◎ 本時で新たに設定する場について知らせ，試しの運動を行わせることで生まれる「より高く跳べるようになりたい」「高く跳ぶためにはどうしたらよいか考えたい」というつまずきや願いを引き出し，共通課題を見出すことができるようにする。	鬼退治セット
(3) 課題を解決するための手がかりを共有し合う。	5分	◎ 助走を付けて片足で踏み切っている子どもの動きを取り上げ，片足で跳ぶよさや助走を付けてから踏み切ると高く跳べそうだという手がかりについて共有できるようにする。	
(4) ペアやグループ毎に活動する。	8分	・ 練習場面を設けることで，助走を付けた踏み切りを実際の動きの中で確かめ合うようにさせる。また，ペアやグループで活動させることで，友だちに動きのイメージや動きの高まりを積極的に伝え合うことができるようにさせる。	
(5) 跳びっこ島で遊ぶ	8分	『跳びっこ島』として，いろいろな跳の運動遊びを巡るようにする。 ①かみなり山（ジグザグにゴムを続けて跳ぶ：連続して上方に跳ぶ） ②こいのぼりの滝（高さの異なる目標物に触る：上方に跳ぶ） ③地獄沼（跳び箱に跳び乗り，跳び降りる：上方に跳ぶ，着地） ④カエルの池 （ケンステップを跳ぶ：片足や両足で連続して上方に跳ぶ） ⑤けもの岳（安全マットに跳びつく：助走を付けて上方に跳ぶ） ⑥鬼の住む丘 （吊した鬼の絵を跳んで蹴る：片足で踏み切って上方に跳ぶ）  ◇ 勢いよく助走を付けて片足で（A：力強く）踏み切って跳ぶことができる。（技能：観察）	ゴム跳びセット 安全マット ケンステップ 跳び箱 CD ラジカセ
<b>4 整理運動</b>	2分	・ 筋肉をほぐすように大きくゆっくり行うようにさせる。	
<b>5 学習のまとめ</b>	6分	◎ 本時の学習課題に立ち返らせながら，学習ノートに記述させたり，子どもたちの発言を交流させたりすることで，動きの高まりやかかわるよさについてとらえさせていく。また，努力の様子が見られた子どもやグループ内での活動のよさも積極的に紹介しながら，学習の仕方についてもよい姿を称揚し，次時以降への意欲をもたせるようにする。	学習ノート
<b>6 後始末</b>	2分	・ 安全に留意させながら，素早く協力して行わせる。 ・ 汗の始末や手洗い・うがいをするように指示する。	